

B 77 阪神地区における成人男子学生の着装に関する衛生学的調査研究  
神戸大教育 稲垣和子

目的 近年、文明の進歩と共に衣生活も年々複雑化し、多様を極めているが、先年行なった小・中学生の着衣調査に引き続き、今回は被服衛生学的立場から成人男子学生の着装傾向の実態を把握し、衣生活の向上と健康増進に役立つ目的で本調査を実施した。若干の成績を得たので報告する。

方法 1979年～1981年実施の日本家政学会被服衛生学部会関東支部の全国調査において、演者は阪神地区の成人男女の着衣実態調査を担当したが、その成果を踏まえ、調査用紙を作成し、阪神間に居住する成人男子学生(18才～23才)154名について、1981年4月、7月、10月、1982年1月の計4回にわたり追跡調査法により着衣状況を調査した。調査項目は年齢、身長、体重、寒暑感覚、湿潤感、快適感、着衣重量、上半身衣服、下半身衣服、類被服、靴下・履物類とし、屋内外における着装状況を調査し、衣服重量、着用感覚、服種、着用枚数と組み合わせ、被服材料などについて種々検索した。

結果 衣服重量は季節に応じて変動し、単位体表面積( $m^2$ )当りの衣服重量は、夏季511g < 春季905g < 秋季983g < 冬季1,332gである。肩重量は夏季218g < 春季783g < 秋季909g < 冬季1,464gで気温の低下に伴い増加するが、腰重量は季節変化による変動が極めて小さく年較差92gにすぎず、成人男子の着装は殆んど上半身衣服のみにより体温調節が行なわれる傾向が認められる。衣服重量と外気温の間には $Y = -0.974$ の負の相関がみられ、回帰式は $Y = -0.036X + 1.562$ であった。体格と衣服重量、体格と寒暑感覚の間には顕著な関係は認められなかった。着装パターンは多種多様で、上半身衣服は23種類にも及んだ。